



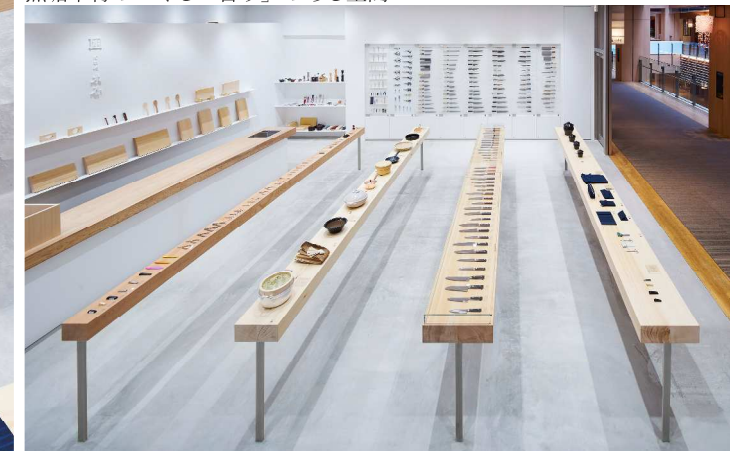
木曾ひのき / 桧 / ヒバ / 赤松 / 杉の5種類の木材のテーブル



「素材としての木材」が浮遊する空間



無垢木材のつくる「香り」のある空間



商品の大きさに合わせた幅をもつテーブル



4.5m スパンに対して、120mm 厚の木材を架け渡した構造体

日本橋 木屋 時間を封じ込めた木材のテーブル

庖丁・鉢などを中心とする日本の生活道具を取り扱う老舗刃物店「日本橋木屋」の新店舗の計画である。自然の材料から職人の手により魔法のように生み出される道具の数々を一点一点丁寧に見せるための空間とした。

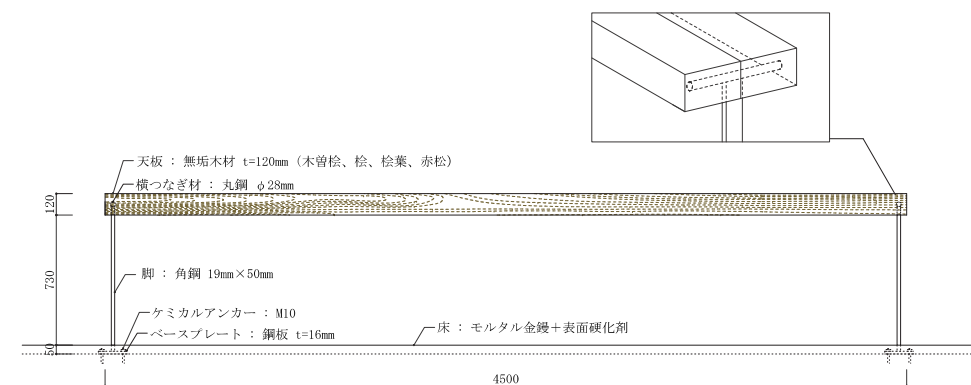
そのために、空間の中央に5種類の無垢の角材を浮かべ、その木材のそれぞれの幅・色・木目に合わせて商品を一点一点陳列することを考えた。この木材は創業200年の店舗と同年代の樹齢200年前後の無垢木材である。

長さ4.5m 厚さ120mmの無垢木材は両端2点のみでスチールフラットバーの柱により支えられ、構造な均衡状態となり、木材が空中に浮遊している様な不思議な存在

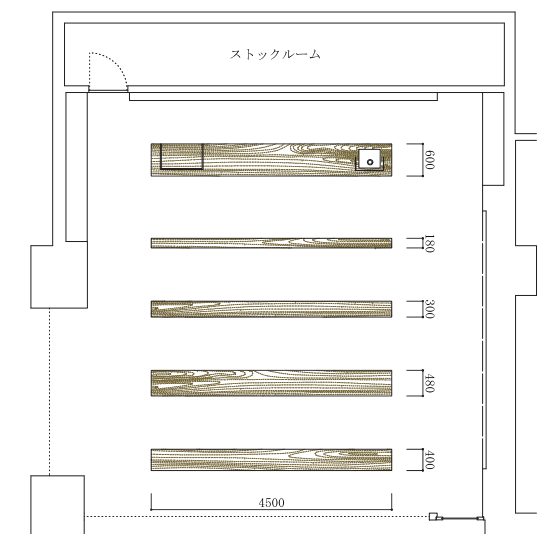
感を放つ。木材を仕上げだけでなく構造体として使うことで無駄のない本物の造りとなる。

また、この店舗では古くなったまな板をカンナで綺麗に削り直すことができるのだが、この無垢木材も時間が経ち汚れや傷がついたら、カンナで削り直すことにしている。その時にはまた新しい木肌が表れ、空間の中に新鮮な木の香りが溢れることになる。その香りはもしかしたら200年前の空気かもしれない。

樹齢200年の木材により老舗店舗の持つ「歴史」を表現すると同時に、無垢の木材の香りの持つ「瑞々しさ」という二つの時間を空間の中に封じ込めた。



断面図 S=1:30



平面図 S=1:100